

三重県子ども条例学習推進業務 事業終了報告書

① 担当団体	NPO法人三重みなみ子どもネットワーク
協働 ネットワーク団体	玉城町教育委員会・青少年を育てる会 玉城町生活福祉課子育て総合支援室・玉城町社会福祉協議会
開催日時	2011 年 9 月 30 日
会 場	玉城町保健福祉会館
対象及び参加者	民生児童委員・社会教育委員・ファミリーサポートセンター提供会員・子育て サポーター・青少年を育てる会共助員・学童保育職員
参加人数	26 人
実施内容	<p>○テーマ:「子ども条例」って知ってますか？</p> <p>19:00 挨拶と今日の話し合いの説明。写真撮影の確認。</p> <p>19:05 前半テーマ「親(大人)は良かれと欲していること・それは子どものためなのか?熊本の宗教施設で起きた事件から」</p> <p>19:10 グループで話し合い。自己紹介とテーマに対してどう思ったか、感想などを出し合う。1人2分程度で。発表者を決める。その後自由に話し合い。</p> <p>19:45 各グループで話し合いの内容発表。1グループ2分で。</p> <p>19:55 休憩 三重県からの資料配布</p> <p>20:05 後半テーマ「子ども条例前文(抜粋)からと基本理念」</p> <ul style="list-style-type: none"> * 子どもを権利の主体とする * 子どもの最善の利益を尊重する * 子どもの力を信頼する <p>20:10 普段の活動を通して思うことなど話し合う。</p> <p>20:50 各グループで話し合いの内容発表。1グループ2分で。</p> <p>21:00 終了。</p>
事業のねらい(目標)	<p>○条例の理念を通して、自分達の子ども支援の在り方を振り返る。</p> <p>○自分達が子どもの権利をどう捉えているかを知る。</p> <p>○これからの子ども支援の在り方を投げかける。</p>
事業の成果	自分の過去の経験の中から、「子どもの権利」ということについて、考えていただきましたが、もともと感性のよい方が多く、ある程度の理解は得られたように思います。
参加者の感想	<p>○いろいろな年代の方のお話や思いが聞けてよかったです。“親”の立場でも、子どもが幼児・小中学生・高校生・成人で違っているし、振り返ったり、先のことを想像や仮定して考えることができました。大人が子どもの権利を尊重することの難しさ。子どもに正しく権利のことを伝えていくことの大切さ。頭ではわかっているが、実際の自分の子育てで、となると子どもの権利を侵しまくっていること・・・反省しつつも、なかなか上手くいかないと感じています。親だけで子どもを育て、伝えていくことは不可能で、よその子には自分が、自分の子にはよその親や大人に、とお互い助け合い協力しあいながら、いろいろな年代の人たちに教えられて育つことがよいのではないかと思います。その一方で、親は子どものすべてに責任をもつことをもっと意識して、学校や本人に任せきりにならないようにしなければと思います。親子(おとなと子ども)がお互いに尊重しあえるような関係になるのが理想。子どものコミュニケーションについて・・・小さい頃からの人間関係の経験が不足しているのでは?という話。とても納得させられました。</p> <p>○グループ討議では、グループ全員の意見が自由に出て、大変楽しく充実し</p>

	<p>た討議であった。子育てを終えた人は、自分の子育てをしてきた、また現在、子育て中のお母さんは、日頃の悩みや迷い等、それぞれ本音で語り合えました。話し合いの中で、私は自分の子どもに対し、期待感や、親の満足感が強く、子どもの思いや気持ちを受け止めてあげる事が出来なかった、自分の反省と共に、子どもにとって、一番大切な自己肯定感を育てる事の大切さ等、共に話し合えて良かった。</p> <p>○学習会に誘っていただきありがとうございました。自分の年令も顧みず出席させてもらいましたが、懐かしい方々のお顔を拝見し嬉しく思い出しました。私事ですが、退職後、突然に孫男二人(4才、5才)を自分の手で育てていけないかん事になり不安のかたまりになってしまいました。回りの人たちから言われました。「我が子を育てることを義母にまかせ、仕事第一の日々だったのではないか、実際の子育てがしてないから、今それこそ授かったのだから当たり前のことと違うのか・・・。」と諭されました。あれから16年が過ぎ、二人共成人させてもらって、今はホッとしておる所です。孫とかかわる間、自分の出来る事は？しなければならぬことは？自問自答の毎日！！母親にはなれない、でも精一杯愛する事しかありません。理由はどうあれ我が子を私に託して去っていった親の気持ちを考えると、とても切ない日々でした。</p> <p>まずは健康第一との思いで、空腹だけにはさせまいとの一念でした。保育所、小学校の給食はありがたかったです。今、幼い子たちと接するチャンスは、年に一回「お寺スクール」での座禅のお手伝いだけなのですが、言葉がけが今のお母さん方の様にソフトにはなかなか出来ず、これでいいのかなと、年々反省することばかりです。テレビで皆さんの活躍ぶりを拝見して、今はこうなんやと自分なりに理解し納得させてもらっております。</p> <p>○「子ども条例」って知っていますか？のお話が聞きたく参加させていただきましたが、あまり具体的なお話がなく、グループに分かれての話し合いで、後グループごとの発表でしたが、私共グループも一人一人意見、又は、自分の子育ての事など話の内容は良かったと思いますが、その後の子ども達と、どう関わっていくか、関わっていったらよいかを聞きたかったです。いろいろ勉強していきたいと思えます。</p> <p>○立場・年令などのちがう人たちが集まって話し合ったことは新鮮で楽しい時間でした。みんなそれぞれ子どもによかれと思っしていることが、子どもにとってはどうかという視点を共有できてよかったです。</p> <p>○子どもを取り巻く環境の変化はめまぐるしく、それを支える家庭はもとより地域にも大変な時期だと思えます。これまで何かにつけ「子育て」に重きを置いた感がありますが、今回の条例の制定では、子どもの自発性、本来持っている育つ力をいかに伸ばしてあげられるか、ある意味、親、地域が試されているような気がします。</p>
今後の展開について	アンケートにも書かれていましたが、まだ入り口に立ったところですので、これからもこのような機会を持ちたいと思えます。2月に玉紀町教育委員会が「子どもの権利学習会」を開催予定ですが、その学習会の企画をともに考えています。今回の参加者をベースに、対象者を少し広げていきたいと思えます。

② 担当団体	NPO 法人子どもステーションくまの
協働 ネットワーク団体	紀南 PTA 連合会 NPO 法人子どもステーションくまの
開催日時	平成 23 年 10 月 4 日

会 場	熊野市文化交流センター
対象及び参加者	子育て支援者、一般
参加人数	36 人
実施内容	○テーマ:「子どもの権利ってなんだろう？」 NPO 法人あそび環境 Museum アフタフ・バーバン主宰北島尚志さんによる、「遊びを通して見えてくる子どもの力と対等な立場で一緒に遊び合う大人」の内容の講演会。
事業のねらい(目標)	子どもと一緒に遊びあうことの実践を通して見えてくる子どもの姿の話から、子どもの力を信じること、子どもを権利の主体としてとらえること等の子ども観を、地域の大人や保護者らに学んでもらう。
事業の成果	参加者それぞれに、感じたことや思ったことの温度差に開きはあると思うが、終了後の話(歓談)を通して、あるいは感想文を通して今までの子ども観を考え直すきっかけになりそうな手応えは受け取ることができた。
参加者の感想	○今まで自分が子どもの持っている力のすごさや、発想の豊かさを信用していなくて、待てないで焦って余計な事をいっぱい言ったりしていたことを感じた。 ○子どもが子ども時代を充分遊んで生き抜くことが、自分をしっかりと持ち、相手のことも考えられる、人として生きる力を持った大人に繋がるんだなと思った。 ○今まで、何でも子どものことは親が主導権を持って導いてあげなければと思って、こうしろあーしろと言ってきたが、それって子どもの力を封じ込めていたんですね。人間として同じって分かるけど難しい。
今後の展開について	PTA 連合との繋がりを機に、できれば大勢の先生や父兄にも子どもの権利のことを学ぶ機会を持って頂きたいので、P 連の研修会に濱田先生に講演を依頼する話を進めています。

③ 担当団体	特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター
協働 ネットワーク団体	子どもの権利を考える市民委員会(松阪市こども未来課・松阪市教育委員会 人権学び課、松阪市社会福祉協議会、松阪市学童保育連絡協議会、主任児童委員、くれっしえんど)
開催日時	平成 23 年 10 月 22 日(土) 13:30~16:00
会 場	松阪市花岡地区市民センター
対象及び参加者	子どもに関わる人、一般
参加人数	37 人
実施内容	○テーマ:「子どもの権利って!？」 講師(特)三重県子ども NPO サポートセンター 秋山則子さん ・子ども条例の前文(抜粋)と基本理念 子どもを権利の主体とする 子どもの最善の利益を尊重する 子どもの力を信頼する ・権利とは? ・子どもに聞くこと ・最善の利益とは? ・子どもに良かれと思ってしていることは自分のため? ○グループディスカッション ・日頃の活動を通して思っていることなどを話し合う。

	<p>・各グループからひとりずつ、話し合っただけ感じたことを発表する。</p>
事業のねらい(目標)	<p>○三重県子ども条例の認識と理解。</p> <p>○子どもの権利とは何か、子どもを権利主体と捉えることとはどういうことかを学び合う。</p> <p>○地域における子ども支援とはどういうことかを投げかける。</p>
事業の成果	<p>○自分の子育てや子どもとの関わりをふりかえりながら話し、そこから子どもの権利について考えることができた。</p> <p>○話し合いの中では「子どもに権利を持たせるとわがままになる。」という意見も出た。こういう意見を出してもらって考え合えたのは、よい機会になったと思う。</p>
参加者の感想	<p>○まずは子どもの気持ちをしっかりと受け止めるということがとても大切だと思いました。</p> <p>○ずーっと団体の中で子育てしてきたように思います。失敗もいっぱい…でも、ほめてくれる人もいた。これからも一人でないところで頑張りたいと思った。人ひとり折るはよからず…デス。</p> <p>○権利という難しいが「だれでもある、あたり前のこと」ととらえると、もっと皆の中に入れていけたらと思った。グループディスカッションで各々が自分の体験を話しこの集まりの意義のようなものが感じられた。</p> <p>○秋山さんに言いたいことを全部言ってもらった感じだ。自分がものを言わせてもらえずに育ってきたのが、大人になった今でもひきずっている。考えるスイッチはどうしたら入るのだろうか。</p> <p>○あたりまえのことがあたりまえに守られる世の中になってほしいです。子どもが伸び伸び自分を主張するには受けとめる大人の器がためされる気がします。受けとめる大人になれるよう学習していきたいなあと思いました。たくさん大人の学びあえるといいですね。</p> <p>○子ども時代のことを考えさせられました。上級生の手をかんでいた記憶があります。親が学校の先生でしたのでひょっとしたらストレスのかたまりだったかも。一生反抗期かもしれません。いろいろサポートよろしくお願いします。世代がいろいろよかったです。</p> <p>○「子ども条例」あることも知りませんでした。今までのいろいろな研修会に参加させていただいて、タイトルは違っても子どもへの思いは一緒なのだと思われ、日々の生活に生かしていこうと思いつつ毎日が過ぎていくことに毎回反省させられます。</p> <p>○様々な立場の人たちと話し合うことができ、子育て観、子どもの見方など勉強になりました。子どもにまず聞いてえらばせる姿勢が大切なんだと思いました。日々葛藤です。</p> <p>○子育てにかかわって、それぞれの思いや悩みを素直に話し合うことができ、短時間でしたが充実しました。生涯、子育てには終わりがありませんね。母・子・孫と連鎖していることを痛感しました。いろいろな気づきをいただき、今日はありがとうございました。</p> <p>○身近な人に対してだとしても遠慮がなくなってしまうので、どんな人にもきちんと話していきたいと思いました。子どもだから～とかは全然関係ないと思うんですね。どんな事でも一緒に話すだけでいいんだと思いました。</p>
今後の展開について	<p>○参加者からもこういう機会がもっとあるとよいという意見も聞かれ、今回だけにとどまらず、いろいろな地域で子どもの権利について話し合う場をつくりたい。</p>

④ 担当団体	四日市まんなか子ども劇場
協働 ネットワーク団体	なし
開催日時	平成 23 年 10 月 26 日
会 場	四日市市なやプラザ
対象及び参加者	子ども支援者・未就園児の親
参加人数	24 人
実施内容	<p>○テーマ:生活の中の子どもの権利</p> <p>○「三重県子ども条例」についての説明 主旨・内容</p> <p>○講演「生活の中の子どもの権利」 講師:NPO法人こどもスペース四日市理事長 水谷孝子さん 未就園児を持つ親が、子どもは母親が育てるものという風潮の中「子育て」の重圧に耐えながら育児をしています。その中で、子どもの権利を守るとは どういうことか、また、子どもの価値観と大人の価値観の違いなどお話しして 頂く。</p> <p>○子どもの権利とは</p> <p>○今の子どもたちの置かれている状況</p> <p>○先進国に住む 15 歳の子どもからの調査から見る日本の子ども</p> <p>○世界の子ども観</p> <p>○子どもの権利を守るって?</p> <p>○親の価値観と子どもの価値観</p> <p>○講演後参加者との意見交換 身近に引き寄せてどう感じたか、子育て中の親や、子どもを支援している方 から、現場で実感している事など出し合う。</p>
事業のねらい(目標)	<p>○「三重県子ども条例」の認識と理解</p> <p>○子どもは、どんなに幼くても親の気配を感じ取って、気づかいしながら生活 しています。また、学童保育・子育て支援の現場で、支援者が普段の生活 で無意識にしている権利侵害を意識化することで、子どもを主体として尊重 すること、子どもの力を信じるということを学びあいます。</p>
事業の成果	<p>○支援者でありながら、子ども条例のことを知らないという方も見え、子どもとか かわるうえで大事な子ども観だと知っていただく機会になった。</p> <p>○講演者の子どもへの期待から親が子どものすべてを決めてしまってきたこ とが、が子どもに考える機会を奪い、考える力すらも奪ってしまったという体 験談から、身近な問題としてとらえることができた。</p> <p>○親が期待する答えを出す子どもの様子に気付く姿が見られた。</p>

参加者の感想	<p>○子どもを一人の人として認めることがなかなかできない私ですが、少しずつでも認めていこうかと思えます。</p> <p>○日頃の子どもへの言葉がけや態度を思い返してとても反省しました。つつい将来のためにと口を出してしまいます。子どもの声をきかずに。</p> <p>○子どもが健やかに育つためには、本当に親も安心して子育てができるしゃかいじゃないとおけないなと思えます。お母さんやお父さんが心穏やかに暮らせていられているかはとても大事だと思えました。</p> <p>○私自身ももっと成長しなければならぬと感じた。私の考えを押し付けていることが多かった。見守る勇気を持ちたいと思った。また、その結果を受け止められるような大人でいたい。</p> <p>○自分が成長して子どもの権利についても学んでいきたいと思います。</p> <p>○いろんな体験談を聞いて良かったです。子どもは今の連続で生きているなどいろんな言葉が心に残りました。</p> <p>○子どもを親の思い通りにさせようとしてしまうことも多くあるなあと振り返りになりました。最後に他の人の話を聞いて良かったです。</p> <p>○権利を守らなければ今の子どもはいろいろな面で大変な世の中を生きているのだと改めて感じた。</p> <p>○私の子育ての時はご近所のおじいさん・おばあさんにお世話になったり、近くの公園へ毎日のように出かけたりといい時代だったのだと思う。</p> <p>○学童の指導員としては、子どもと何かの問題があったり、注意する時は、きちんと冷静に話あうように心がけている。</p> <p>○子ども条例のことは何も知りませんでした。無知のまま指導員で働き始めましたが、このような勉強会に参加していろいろ覚えていきたいです。これから、子育てをしていく予定にとっては、せんぱい方の話は、すごく勉強になりました。</p> <p>○自分の価値観の中で、子育てしてきたことに今頃になって気づき、いろいろ考えさせられました。それとともに、自分の言葉行動で意思表示できない障害のある子についてどのような対応をしたらよいのか、していくべきなのか、今の大人がしている対応を考えてしまいました。講演を聞きながら、共感することもたくさんあり、皆一緒なんだと思うこともあります。自分の思ったことができない自分です。子どもと共に自分の権利とも向き合い成長していきたいです。</p>
今後の展開について	<p>小さな子を持つ親が、子育ての重圧に耐えながら子どもとの時間を過ごしていることがわかり、その気持ちを受け止めながら、自分の育ちを振り返ることや、人の考えを聞くことで考えの幅が広がるということを実感できる場を作りたい。また、子どもの遊びを保障し、親自身が運営するプレイセンターを立ち上げ、こどもの権利について学び続けたい。</p>

⑤ 担当団体	特定非営利活動法人 津子ども NPO センター
協働ネットワーク団体	育生地区虐待防止ネットワーク協議会
開催日時	2011年10月28日(金)19:00～21:00
会場	橋南市民センター 大ホール

対象及び参加者	PTAをはじめとした子どもに関わる支援者
参加人数	42人
実施内容	○テーマ:子どもの権利ってなんだろう? 講師:津市教育委員会人権教育課 外岡博明さん ・三重県子ども条例の前文を読む。 ・講師によるワーク。 ・ワークの中で感じたことを「権利」と結びつける全体共有
事業のねらい(目標)	子ども支援者が子どもの権利をどうとらえて日常声かけができていないか疑問があった。ありのままの子どもを受けとめるには支援者自身の権利(自己肯定感)を少しでも高めたいと思い、ワークをしてつかもうと考えた。
事業の成果	コミュニケーションワークの要素が強く、終わってからの全体共有の中でも権利のことに結びつけることができなかつたため、参加者が権利のことをどう感じたかはわからない。
参加者の感想	○子どもの権利について初めて関心を持つことができました。 ○「みんな違ってみんないい」むづかしいけど大きな気持ちで認められたら良いなと思います。 ○人と関わることは難しいことも辛いこともあるけど、やっぱりたのしいものだと思うように地域でとりくんでいけたらなあと思います。 ○子どもの心を受け止めるということも大事 ○「子どもの権利」について深めていないように感じる。ワークはたのしく受けさせていただきました。
今後の展開について	○「子ども支援フォーラム」に参加してもらい、多くの方が子どものことを考えていることを感じてもらう。 ○これから地域の中で研修を重ねて、支援者の力にしていく。

⑥ 担当団体	子育て広場・ドロッピン
協働 ネットワーク団体	
開催日時	10月29日(土)10:00~12:00
会場	あさけプラザ
対象及び参加者	子ども支援者、一般
参加人数	21人
実施内容	○テーマ:「子ども条例」って知っていますか? 三重県子ども NPO サポートセンターの秋山則子さんから、子どもの権利を身近な題材から話して頂き 3 グループに分かれて話し合い発表する。引き続き三重県の子ども条例の理念についてお話しいただき、3 グループに分かれて話し合い発表する。いろいろ出た中からまとめを聞く。
事業のねらい(目標)	普段考えている自分の考えを言い他者の考えを聴くことによって、少しでも子ども達を支援する人や母親が、自分の権利や子どもの権利に気付く。子どもには生まれながらに育つ力があることに気付き、それが発揮できる為にも子ども達のまわりにいろんな大人がいることの必要性に気付く。
事業の成果	権利が身近に感じられる様になり、子どもと話す時に子どもの権利を意識して話し合うきっかけとなった。 話し合いの中から、年齢を重ねても、いつまでも母としても妻としても離れられず自立できていない自分の権利を持っていない姑は、子ども達の権利も知らぬ間に奪ってしまっていることに気づいていないことに気付き、年齢を重ねて

	<p>も大きな問題であることに気付けた。 人を殺したいぐらい憎いと思うことがあるという発言が、衝撃的であり思っ てはいけないことだと考えている参加者からの意見が出た。小さい頃から感情 を出すことを制限されている現状が見えた。</p>
<p>参加者の感想</p>	<p>○川越町ではまちづくりの第 1 歩としてあいさつ運動を展開しています。大人 が見本になり「おはよう」ではなく「おはようございます」とあいさつをする とのこと。今まで子どもたちにだけ「おはよう」と声かけして何か変?!と 思っていたのがこのことだ!!と気付きました。参加して大人(自分)の思 い、都合で世の中を動かそうとしている大人たちの反省点をたくさん教えて いただきました。ありがとうございました。</p> <p>○権利とは?何となく理解できました。自分が子どもに対してしていることの中 に権利を無視したことが無いようにしたい。自分が悪い時はきちんとごめん なさいと言えること。自分の感情、思いを押し付けたりしてしまい反省した 時は間違っていたと言えるようになりたいです。</p> <p>○「私はルールを敷きたい」と子どもに言ってみようと思います。来てよかったです。</p> <p>○むずかし講演かなと思っていましたが、グループでのワークショップで皆 さんの意見や自分の考えを言うことができ楽しかったです。感情をコントロール するには言葉で表現することもだいじと勉強になりました。いろんな感情 を持つことは大事で、受け止めることもだいじなんですね。わかっている けど、できない事も多々あります。少しでも、子ども達にとっていい社会が つくれるといいですね。</p> <p>○考えさせていただきました。こんな場所で話ができるとは思わなかった ので楽しかったですヨ!!</p> <p>○子どもの前にルールをしかないようになくはと思いつつやっぱりして しまい自分がいることを痛感しました。昨日、子ども達(姉妹)がケンカを して、つい口を挟んで姉を主にしかる結果になってしまし、悪かったなと思 い、後で謝ろうと思います。今度から二人にまかせて、ほっとこうと思 います。そんなケンカをしても、今朝は仲良く遊んでいる二人を見るとほ っとします。</p> <p>○子供は親の背中を見て育つ。これはいつの場合(時代)でも同じだと思 います。子供に対し・自分の身につくことをさせる。 ・大人が仲裁しないで子供にまさせる ・言葉掛けをする etc</p> <p>何だかしっかり理解しない内に講習が終わり頭がパニックです。</p> <p>○子どもと関わる上で気を付けなくてはいけないこと、反省しなくては いけないことを学べてよかったです。ありがとうございました。</p> <p>○子育て中に自身が子どもに対して権利を尊重せず親の主張を通し てきってしまったことがよく分かった。</p> <p>○先生のお話とても為になりました。聞いてよかったです。たくさん印象 に残りましたが…わたしはこういう人だとわかって意識しながら子育 てすることが印象にのこりました。他、お母さん、おばあちゃんにな っている人たちと話せて世界が広がり色々な気付きがありました。あり がとうございました!</p> <p>○年代の違いも感じましたが、私の娘、息子の世代の方達なので、 生活が見えて理解もできとてもよかったです。孫育てのことについて…</p> <p>○あたりまえと思っている権利というものをあたりまえじゃなく、 意識してみるといろいろな場面で子どもを尊重していない時が多い なと感じた。子ども条例を通してみると対等になってみると、大人 だから、親だからという肩の力を入れずにいられる気がした。大人 も失敗する、感情もあるとぶっちゃけていき</p>

	<p>たい。正直になることができるか？だと思う。たくさんの方の力を借りて子育てしていきたいと思う。大目に見るといふことを持ちたいが、大目に見れない時もあるといふことを伝えたい。自分と向き合い、自分らしい生き方をしたい。</p> <p>○「私はこれだけのものなんです、いっしょにやってみましょう」すてきなスタンスだなと思います。親にも子にもまず人として権利は同じようにあるのだし、いっしょに成長していきたいと改めて決意する良い機会になりました。きく→はなす→きく→はなす、自分の考えを確認しながら参加できる良い講座でした。ありがとうございました。</p>
今後の展開について	<p>子ども支援者にとっても、母親にとっても自分の価値観で子どものことを推し量っていることに気付くことが大切だ。大勢の人たちの中で意見を出し合う中で自分の正しいと思っていることは、一つの価値観にすぎないことに気付くチャンスは今後も作っていく必要を感じた。</p> <p>ファシリテーターの中には、年齢差やがっちりとした価値観に対抗できないと思ったグループもあったが、そうだからこそ余計に、少しでも、このような気づきの機会を増やすことが大事だと思った。</p> <p>ぜひ、朝日町でもこのような機会を持ちたいと思う。</p>

⑦ 担当団体	特定非営利活動法人くわな子どもネット
協働ネットワーク団体	
開催日時	平成 23 年 10 月 30 日(日)
会 場	桑名市精義公民館
対象及び参加者	<p>対象:チャイルドライン受け手・支え手、養護施設学習支援学びサポーター、ファミリーサポート会員、主任児童委員、子どもに関わる行政、NPO</p> <p>参加者:21 人(チャイルドラインボランティア、学びサポーター、主任児童委員、市議会議員、学生、NPO)</p>
参加人数	21 人
実施内容	<p>○テーマ:子どもにとって一番いいことって？</p> <p>○子ども条例についての説明 制定の背景・制定までの取組み・趣旨・内容</p> <p>○グループワークショップ 参加者が子どもの頃のつらかった体験、嫌だった体験を一人1つ出しどうしてつらかったのか、嫌だったのか、そのことに対してどのような対応やサポートがあったらよかったかを考える。それは「子ども条例」の3つの基本理念や子どもの権利の何が侵害されていたのか、今の子どもたちは権利が守られているか、子ども支援者として子どもの権利をどのように意識しているかを考える。</p>
事業のねらい(目標)	<p>○「三重県子ども条例」の認識と理解</p> <p>○子ども支援者として、子どもを権利の主体として尊重すること、子どもの最善の利益を尊重すること、子どもの力を信頼することはどういふことなのかを学び合う。</p>
事業の成果	<p>自分の子ども時代の体験とその時のつらかった思いを話すことで、参加者は子どものどのような権利が守られていなかったのかを身近な問題として捉えることができた。</p> <p>ただ、子ども支援者として、自分が現在取り組んでいる活動やこれから取り組む活動と「子ども条例」の基本理念や子どもの権利を結びつけ掘り下げて話し</p>

	合う時間が足りなかった。
参加者の感想	<p>○子どもの権利というものを様々な角度から考えることができた。自分の子ども時代のことを思い出すのも新たな見方で、子どもの権利を考える良いきっかけになると思う。</p> <p>○子どもをいかに一人の人間として見ていない大人が多いかということ再認識した。・子どもは大人の持ち物ではなく、一人一人大切な個人だということをお忘れなくしたい。</p> <p>○過去の自分を振り返り、いかに基本理念から外れた環境にあったかを知らされた。ワークで話し合ううちに、自然に目指す方向が見えてきた。</p> <p>○基本理念を頭に入れて子どもと接していきたい。</p> <p>○三重県では子どもの人権を大切にしようとしていることが改めてわかった。</p> <p>○ワークショップでやったことと権利をもっと具体的に結びつけられるように考えられたら良かったと思う。・「子どもにとって一番いいことって？」とのテーマについて、もう少し話せたら良かったと思う。</p> <p>○子どもと一緒に子ども条例のワークショップをしたいと思った。そしていろいろ意見を聞いてみたい(私達の思っている事と違うかもしれない!!)・子どもにも同じワークショップをしたらおもしろいと思う。世代別で行うのも良いと思う。</p>
今後の展開について	<p>今回の学習会をきっかけに、ファミリーサポート援助会員・プレイルーム(桑名市託児室)スタッフの研修としても行っていきたい。</p> <p>また、桑名の子ども支援会議(行政の子育て支援担当者・NPO・主任児童委員らが集まり、子ども支援マップづくりを通して、子ども支援を考えるあつまり)に更に様々な立場の人の参加を呼びかけ、そこでも子どもの権利を考える機会を作り、子ども支援者が「三重県子ども条例」や子どもの権利を踏まえた活動をしていけるよう取り組んでいく。</p>

⑧ 担当団体	特定非営利活動法人 津子ども NPO センター
協働ネットワーク団体	
開催日時	2011年11月11日(金)18時30分～20時30分
会場	津市立新町小学校 多目的教室
対象及び参加者	子育て中の保護者・一般市民
参加人数	21人
実施内容	<p>○テーマ:子どもの権利を考えよう!</p> <p>講師:津市教育委員会人権教育課 外岡博明さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県子ども条例の前文を読む。 ・講師によるワークショップ。 ・グループに分かれて話し合う(これまで言われた言葉で一番うれしかった言葉を書き出す) ・全体で共有(「うんこ」の詩を読んで共感することの意味)
事業のねらい(目標)	<p>○日々の暮らしの中で権利はあることを知り、感じる。</p> <p>○子どもたちは日常的に共感したり、認められたり少しづつ重ねていくことで自己肯定感を高めていく。</p>
事業の成果	<p>○子どもの権利について知ったり考えたりするきっかけになった。</p> <p>○毎日の暮らしの中で子どもの話をしっかり聴くことなど子どもの権利のことが身近なことであることを感じてもらった。</p>
参加者の感想	○子どもの権利を無視してきたのではないかと思う。気持ちの共有、声を聴くということができていなかったように思う。

	<p>○自分の子どもに自分の思いを押しつけ、コントロールしようとしていることに気づいた。</p> <p>○子どもの権利を考えるきっかけを作ってもらった。</p> <p>○子どもを権利主体として考えるというのがなかなか解りにくかったのですが、子どもの存在そのものをあるがままに受け止めることで、少し考えられるようになった。</p>
今後の展開について	<p>・子どもの権利条例づくりのきっかけにしていきたい。具体的にはこれから考えていく。</p>

⑨ 担当団体	NPO 法人三重みなみ子どもネットワーク
協働ネットワーク団体	しま子育て応援団・志摩市・志摩市教育委員会・志摩市社会福祉協議会
開催日時	2011年11月14日
会場	志摩市阿児アリーナ 研修室
対象及び参加者	子ども支援者(主任児童委員・FS 援助会員・地域ボランティア・)
参加人数	23人
実施内容	<p>○テーマ:「子ども条例」って知っていますか？</p> <p>三重県子ども条例とは・・・経緯など説明(写真撮影の件) (パンフレットは配布しておく)</p> <p>19:10 子ども条例の3つの理念の話し</p> <p>19:30 KJ法で意見を出しながら、話し合い。(適当に休憩を取る。)</p> <p>20:35 グループで発表 1グループ5分</p> <p>20:50 まとめ</p> <p>21:00 終了</p>
事業のねらい(目標)	<p>○条例の理念を通して、自分達の子ども支援の在り方を振り返る。</p> <p>○自分達が子どもの権利をどう捉えているかを知る。</p> <p>○これからの子ども支援の在り方を投げかける。</p>
事業の成果	<p>ほとんどの方は、自分の子育てなどに重ねて考えていただけましたが「子どもに権利なんか与えては、しつけができない。」と思う方がいるグループでは、議論が白熱しました。そう思う方にも参加していただけたのは、違う意見を出し合い、聞きあうよい経験になりました。</p>
参加者の感想	<p>○参加できて良かった。</p> <p>子ども条例のことで、もっと自分たちで、身近にとりくみ考えていけたらいいなと思いました。</p> <p>○大変楽しく勉強させて頂きました。もっと学びたいですね。</p> <p>子ども条例の本質は何なのでしょうね。もっと楽しく学んでみたいです。</p> <p>又、この様な会を開いて頂くと嬉しいです。</p> <p>○「子ども条例」を知りましたが、さてこれからどのように大きくなっていくのか、しっかり育てていけたらいいですね。</p> <p>楽しい時間を過ごせました。出会い、意見交換がうれしかったです。</p> <p>熱い気持ちで子育てをサポートを続けられたらいいです。刺激になりました。</p> <p>○楽しく勉強させて頂きました。いろいろな意見が出て、勉強になりました。</p> <p>○いろいろな話し合いがあり難しかったですが、勉強になりました。</p> <p>はっきりとはわからなかったですが、だからこそこれからも考えて生きたいと思います。</p> <p>○子ども条例とは何か、文面的には理解できた感じですが、やはりこの様な条</p>

	<p>例ができるという事は、地域的・保護者としての見守る力が不足しているのではないかと感じます。</p> <p>もっと若い大人ががんばらないといけませんね。</p> <p>○条例や権利と聞くと、主張することを想像してしまうが、お互いに権利があるので、話し合うことが大切だと思った。</p> <p>○子どもの権利、利益・・・等と聞くと、「難しい」と感じてしまいますが、今日のように具体的な事実、事例を出し合って考えていくと、ちょっとわかったような、身近に感じられたような、そんな気がします。ありがとうございました。</p> <p>○とてもいい機会だったと思っています。</p> <p>ただKJ法という手法にこだわったのがもったいなかったかなと思っています。</p> <p>もっと自由に意見交換できるほうがいいように思えます。</p> <p>○「子ども条例」・・・言葉だけ聞くとなんだか難しそうで、何を話せば良いのだろう・・・なんて思っていました。ディスカッションの中で、普段自分たちが思っていることに自信が持てたと思います。我が子どもを思う気持ちをこれからも大切にして、子ども達と向き合いたいと思います。</p> <p>○色々な考えの人がいることがわかってよかったです。</p> <p>○「子ども条例」よくわかりません。</p> <p>でも、とても大切な事ですよネ、考える事、話し合う事は・・・</p> <p>○マナーやしつけの問題とどう折り合うのか、という所で議論白熱しました。時間が足りなかったのもう少し深めたかった。</p> <p>大人がしっかりとした思いを持つことが大切と思いました。</p> <p>○「子ども条例」についてわからない点があったが、いろいろな人の意見が聞けてよかったです。</p> <p>○話せば話すほど、たくさん問題と気付きが出てきます。難しく、おもしろい(興味深い)です。</p> <p>○子どもを守っていくまわりが気をつける事がたくさんある事を学びました。</p> <p>自分の子育ての反省や勤め先での反省も含め、お母さん達に伝えていきたい。</p> <p>志摩市の子どもたちの育つ環境(特に施設面)も市は考えて欲しいです。もっと子どもの力が発揮できるように。</p> <p>○子どものことについて、いろいろな方面から、いろいろなご意見、提案など、聞くことがあり、勉強になりました。</p> <p>自分の子育てで反省していたけど、他にも自分と同じ心境の方がいることに安心しました。</p> <p>もっと勉強したいな、と思いました。ありがとうございました。</p>
今後の展開について	<p>参加者のご意見から、回数を重ねもっと深め、周りにも広げていく必要があると感じました。志摩市に働きかけて、このような話し合いの機会が持てるようにしたいと思います。また志摩市の方自身が企画するようになっていくとよいと思いますので、しま子育て応援団のメンバーに働きかけます。</p> <p>「子ども条例」に興味のある方だけでなく「子どもに権利なんか」と思っている方も参加してくださいましたが、主任児童委員の研修に位置づけていただいたからだと思います。今後もそのような機会を得られるようにしたいと思います。</p>

⑩ 担当団体	(特)こどもサポート鈴鹿
協働 ネットワーク団体	
開催日時	平成 23 年 11 月 16 日(水)10:00 ~ 12:00
会 場	こどもサポート鈴鹿 つどいの広場トウインクル

対象及び参加者	0～3 歳児を持つ親、広場スタッフ
参加人数	15 人
実施内容	<p>○テーマ:「子どもの心に寄り添う子育てって？」</p> <p>○日々の子育てで子どもの心に寄り添えなかった例をファシリテーターから出し、参加者に自分の生活の中での子どもとの関わりについて話を出し合った。</p> <p>○自分自身(親)が大事にされたり、寄り添ってもらった体験があれば出してもらった。</p> <p>○子ども条例の前文と理念を読み、理解を深めた。</p>
事業のねらい(目標)	子育てを始めたばかりの親を対象として、普段の子どもとの関わりの中から子どもの権利について考え、一人の人間として尊重することが子どもの育ちに大切なことを学ぶ。
事業の成果	「子どもの心に寄り添う」とは、どういうことかよくわからないという参加者が始めは多かったが、話し合ううちに自分が大切にされたり、権利を侵害された体験を考えることで、子どもの心に寄り添うことが子どもの権利を大切にすることにつながることに気づいたと思われる。
参加者の感想	<p>○これから大丈夫かなあって。だんだん大きくなって子どものことを大事にしたり信じたりやりたいことをやらせてあげたり、できるかなあ。大事にしないとなあと改めて思いました。</p> <p>○子ども時代に、寄り添ってもらえた(気にかけてもらった、見守ってもらった)記憶や経験が後々にとても大きな影響を与えるんだなあと感じました。</p> <p>○子育てについていろいろ話したり、聞かせてもらって他の方も自分と同じなんだなあと思って安心しました。なかなか子どもの心に寄り添うことは難しいですが、自分がしてもらって嬉しいことは子どももうれしいと思うので、少しずつでもそういうことを一緒にしたり、笑顔でホットできる時間をすごしていければなあと思いました。</p> <p>○一人で悩んでいないで、多くのお母さん方と話をすることは大変良い事だと感じました。</p> <p>○いろいろ気づかせていただいたことが多くよかったです。</p> <p>○とてもスッキリしました。悩んだり、ぶつかったりいっしょに共感してくれる時間があったよかったです。自分の心に素直に過ごしていきたいと思います。</p> <p>○他のお母さんたちの子育ての話が聞けてよかったですと思いました。いろいろ考えさせられました。</p>
今後の展開について	つどいの広場の日常や講座を通して、子どもの権利についての話し合いの機会を今後とも続けて持っていきたいと思う。

⑪ 担当団体	特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター
協働ネットワーク団体	大台町子育て支援センター
開催日時	平成 23 年 11 月 16 日(水) 10:00～11:30
会 場	大台町健康ふれあい会館
対象及び参加者	子育て中の保護者
参加人数	19 人
実施内容	<p>○テーマ:子育て・子育て どう違う？</p> <p>講師(特)松阪子どもNPOセンター 塩谷明美</p> <p>・子ども条例の前文(抜粋)と基本理念</p> <p>子どもを権利の主体とする</p>

	<p>子どもの最善の利益を尊重する 子どもの力を信頼する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップ <p>問いに対して、そう思う・どちらかというと思う・どちらかというと思わない・そう思わないという意見別に、部屋の四隅に移動してもらい、なぜそこへ行った(そう思ったか)を聞いていく。 (問いの例)・しつけでも子どもをたたくことは暴力だと思う。 ・子どもの携帯電話を勝手に見てもよいと思う。 ・習い事を子どもが辞めたいと言ったら、辞めてもいいと思う。</p> <p>○グループディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップをして感じたことや日頃の子育てで感じていることを話し合う。 ・各グループからひとりずつ、話し合っ感じたことを発表する。
事業のねらい(目標)	<p>○三重県子ども条例の認識と理解。 ○子どもはひとりの個人であることに気づく。 ○地域で子育てすることとはどういうことかを考える。</p>
事業の成果	<p>○日頃の子育てで感じていることやワークショップで感じたことを通して子ども観を言い合い、自分とは違う意見も聞きながら考える場になった。 ○子どもを託児したので、参加者にとってリフレッシュもできた。</p>
参加者の感想	<p>○今まで深く考えた事がなかった様な内容で、暴力とか習い事をどうするか？などたくさんの方の意見が聞けて参考になりました。これからいろいろな方の意見を聞きながら、自分の子育てに自信が持てる日が来るといいなと思いました。そして子どもが大きくなった時、子どもを信じて待てる親になりたいなと思います、良い機会を作っていただきありがとうございました。</p> <p>○今日は他のお母さんたちといろんな話をする事で、改めて子育てについて考え直す機会になりました。1つのテーマについて自分の思いを出すこと。そして他の意見を聞くことで自分の視野がひろがった感じがします。暴力・プライバシー・習い事…子どもの年齢が大きくなるにつれて、自分の考えもきっと変わっていくんだろうなと思います。自分の考えに固執せず、いろいろな考えを聞くことで、気持ちもリフレッシュするような、とっても楽しい時間でした。また機会があれば参加したいと思います。</p> <p>○思いを口に出して話しあえるのはとっても気持ちがよかったです。自分だけではないと心にとめて頑張りたい。そして見守りたいです。</p> <p>○とてもリフレッシュできました。いろいろな方の子育て観を知ることができました。この支援センターでほかの方と一緒に子どもを育てることで、子どもの権利を自然に尊重している気がします。子どもの幸せを見守っていきたくて改めて思いました。</p> <p>○自分の考えやテレビ、本だけの情報でしたが、子育てをしている生の声、考え方を聞くことができとても勉強になりました。みなさんが、しっかり意志を持って子育てしていることに感心してみなならって良かったなあと感じました。このような場を作っていただき本当に良かったです。</p> <p>○人前で自分の意見を言うのは得意ではありませんが、この講座では話しやすい雰囲気で話せました。ふだん自分が思っている事を人前で話すことで、より自分の意見に気づけたりできる事がわかりました。他の人の意見も聞けていい機会になりました。</p>
今後の展開について	<p>子育てで時間や気持ちに余裕のない親が、ふと立ち止まって振り返り、またそれを共有する場を持ちたい。そこで、子どもの権利を学び合いたいと思う。</p>

⑫ 担当団体	NPO 法人 体験ひろば☆こどもスペース四日市
協働 ネットワーク団体	四日市市四郷地区市民センター
開催日時	2012年1月18日(水) 19時～20時半
会 場	四日市市四郷地区市民センター
対象及び参加者	地域の中・小学校、幼稚園、保育園職員・PTA 自治会・子ども会役員など
参加人数	38人
実施内容	○テーマ:子どもにとって大切なことは ○三重県子ども条例の主旨(大切にされている理念)・成立までの過程・日本国内での「子ども条例」制定への動向についての説明 ○自分の子どもや自分自身のいいところ探しや、子育ての中で大切にしていることをグループに分かれて話し合った。 講師:市川清博先生(四日市市人権センター)
事業のねらい(目標)	子ども観や子育て観についてざっくばらんに話し合うことを通して、「子どもの権利」について考え、子ども条例をより身近にとらえる。 市民センターとの共催で、同じ地域で活動する人が交流し、思いを共有する機会とする。
事業の成果	中学校や小学校の先生やPTA、保育園の保育士、地域の自治会の方など、同じ地域で活動していても、子ども観について気軽に話すことの少ない人々が一堂に会し、話し合うことができた。 様々な価値観を持つ者が、子どもを主体者としてとらえ、その権利を大切にす る「子ども条例」の理念について、共通の理解をすることができた。
参加者の感想	○子ども条例素晴らしいですね。しかし、形だけではいけませんので、行政の方がしっかりこどもスペース四日市さんのフォローをして頂いて、たましいのこもった条例、それを生かした子育て・サポート体制が四日市に根付くと良いなと思いました。 ○動きながら、話し合いながらって楽しいし、話の内容が頭に入りやすいですね。正解のない答えを考えていくこと大事だし、普段なかなかじっくり考えることがなかったと思います。 ○市川先生より子どもにとって大事なこと、家庭の中でついつい姉妹で比べたり、マイナスのところを見て言葉に出すことも多い自分がいたことを反省します。子どものいいところを記入しながら、たくさんいいところがあるな～、そこを本人に伝えていけられるようにはしているつもりですが、忙しさのあまり評価していることもありました。ありのままの姿、相手の立場を受け止めるよう心掛けていきたいです。 ○子どもに接することが多い仕事で、今のこども・保護者が生きにくさを感じていることが多いのでは、と思うことがたくさんある。何がそうさせているのか、考えていくことが必要だと思う。子ども条例制定で、子どもへの支援・保護者・企業などへの支援、地域力アップなどさまざまな分野に広がっていくことが大切だと思います。自分も子孫・次世代の為になることに力をそそげたらと思います。本日はありがとうございました。 ○子どもにとってのマイナス部品をプラスにしてあげられるようにしたいと思いました。「子育てで大切にしていること」では、年齢によって大切にすることの順番が変わってくるのがわかりました。 ○市川先生の講演、考えさせられることいっぱいでした。地域の若いお母さん

方と一緒に交流を持ちながら参加できたこと、とてもよかったです。子どもはもう大きいですが、自己肯定感がちゃんと育っているかなあと改めて子育てを振り返る機会にもなりました。子ども条例のこと、もっと多くに知ってもらえること考えていきたいですね。

○いざ「子どものいいところ」と言われて、なかなか思いつくことができませんでした。「ありのままの姿をさらけだす」自分におきかえるとなかなかできないことです。でも、子どもにはそれを求めてしまう…親(私)の身勝手です。自分以外の子育てで大切にしていることの順位がみんなバラバラでびっくりしました。他の人の話が聞けてよかったです。

○日々の生活におわれ、子どもとのふれ合いや受けとめること、向き合うことをしていなかったと反省です。つい、目先の宿題や片付けなどで追いたててしまいが、子ども・人が幸せに育っていくために大切なことは忘れっぱなしです。その人が幸せな大人に育っていくことを大切に、目的にきり変えていくことが必要だと思いました。ふり変えることができ、とてもいい機会になりました。

○こどもの良いところを書いて思ったことは、逆にそうでない時(子どもがいつも元気なのにやたらとメソメソする日があったりする時)いつもはそうじゃないのにと腹を立てている自分の姿に気がつきました。まるごと大好きって子どもを受けとめてないんだと思います。きっと自分自身もまだ丸ごとの自分を受け入れていないところがあるんだと思いました。そんな自分に気づけて良かったです。

○子どものいいところを3つ書くときに、悪い所は思い出すのに、なかなか3つ書けなかったが、いい所を悪い所(と思っている)のは表裏一体だなと感じた。中学生の長女は自分のことを否定ばかりしているが、自分に自信のないのは、親の考え方が表れているのではと考えさせられた。

○たくさんの方が参加され、心強く思います。みんなで子どものことを大切に自分のことを大切に生きていこうと思います。

○大学3年の子どものいいところ…と考えて、3つ目がなかなかうかばず、私からみて、欠点というか、上手に生きられてないなと感じていたところが本当はいい面だなと気づき、そこをあげました。そういったところに気づけてよかったですなと思いました。

○「自分の子どものいいところは」なんて久しぶりに考えました。私は子どもに何を望んでいるのか、何が大切だと思って育ててきたのか、私が良くないところと思っているところが娘のいいところなんだよね。

○市川先生のお話がとてもわかりやすくよかったです。子どものいいところを、と言われ、最初何だろ?どこが我が子のいい所なんだろ?と考えてしまいましたが、人間、悪い所はすぐに出てくるのに、いい所はなかなかすぐには思いつかないもので、情けないものです。でも、よくよく考えてみると、我が子の良い所はいっぱいあるものでした。改めて子育てを見つめなおせる時間でした。ありがとうございました。

○「人権」「子ども」という視点から2人の講師に進めていただいた。新しい気づきもあり、有意義なものであった。今後、仕事をするうえで、あるいは家庭で、今日の内容を思い出しながら、少しずつ前へ進んでいきたい。

○いろいろな年齢や立場の人と話せる機会となった。それらの人と「子どもにとって大切なことは」と一緒に考えあう事が未来の子どもたちにとって、良い環境になると思う。ありがとうございました。

○参加者が多く、皆がちゃんと真剣に考えているんだなと思った。元々、自分は高校時代に自己肯定アンケートの手伝いをした関係で、一昨年元気っ津まつりや昨年のチャイルドラインの全国フォーラム(事情により欠席)にも

関わっており、こうして、四日市市でもこうした話を聞けてよかった。

○今の社会の流れの中で、子どもが少ないことに危機感がありながら先輩(70代以上?)の方には子どもは弱いもの、大人が守ってあげるといった考えが強かったり、また自分を大事にして子どものことが二の次になっている大人がふえていたり、本当に子どもが一人の人間として大事にされることが少ない中で子ども条例が看板だけでなく、中味ある条例にとりくんでもらうこと、大いにこんなキカイやワーキングもやっていけるとよいと思います。一方的にきくのではなく、グループ討議もよかった。ただ、グループのメンバーが知り合いばかりだったのがちょっと残念でした。

○楽しく参加することが出来ました。グループが初めて話をする方々で、年代・性別が違ったグループでラッキーでした。子育てで大切にしていることが、それぞれで違い、それぞれの話にうんうんとうなずくもの、自分の意見を話し、まとまることができず、父親・母親の立場で、子どもの年齢で、価値が変わるよね、とまとまり、そりゃそうだよなー、とかなり納得しました。参加型の講座は心にも残りやすいので、こんな形がいいなと思います。

○大変すばらしいお話を聞かせていただきました。話が具体的で非常に分かり易かった。ユーモアの中に、大切なポイントを折り交えてお話を進めていただき、話の内容を素直に理解することができました。適度に緊張感もあり(クイズ形式を取り入れて)楽しく参加することができました。“ありのままの姿”ってすごく大切だと改めて教えられました。1時間30分が、あっという間に過ぎ去りました。ありがとうございました。素晴らしい時間に感謝致します。

○私は保育園という子どもの生活そのものを大切にしている職場で仕事をしています。子どもが子どもらしく豊かに育つ様に心に思いながら子どもに接しています。自分が愛されている存在であることを子ども達が感じられることいろんな言葉がありますが、本当に大事なことだと思います。自己肯定感も子どもも大人にとっても必要であり、大事なことですよね。

○ふだん、子どものいいところなど考えもしなかったけれど、考える機会をあたえてもらって、子どものことを知ることができました。見直すこともできたので、これからも子どもにとって大切なのは何か子育てで何を大切にしたら良いか、気にしながら生活を送りたいと思います。

○市川先生のお話で、生徒さんに先生は「そのままがいい」という言葉を言ってもらってうれしかったというお話。今回、自分の子どもの良い所を上げる時、2つしか上げられませんでした。子どものそのままをしっかりとみてそのままを受け止められる様になりたいと思いました。こどもスペース理事水谷さんのお話。「自己決定をする」自分で決めた事しか守れないのは、子どもとのせつする際の事を思い出した際、反省をしました。もう少し自分で決定させる様にしたいです。

○子ども条例学習会に参加して、子どもの権利についてはいろいろと聞いたりしていましたが、三重県で子ども条例が4月に出来たことは知りませんでした。市川先生の話で、自分の子どものいいところを3つあげてと言われてすぐにはでてこなかった。すなおに書き出せない自分がいました。子どもは大人の行動を見て育っていくと思うので、気をつけてみていきたいと思う。

○子育てのふりかえりができてよかったです。

○子どものよいところを再確認できました。「権利」いつも考えていくことがとても難しいことだと再確認しました。

○当条例に関心のある人が多くみえたこと大変喜んでます。また、参加者も子育て中の方から、既に子育てを終えた方まで、教育関係者、PTA関係と、本当に良い、有意義な集いでした。

○「子どものいいところを」。やはり自分ではできないで考えているなあとつ

	<p>くずく思いました。何もなくても、たとえば生きているだけでOKと思ったこともあるのに、でもこんな私も私なんです。</p> <p>○市川先生に会えてよかったです。お話の中には今すぐ、これから先長い間の中で親をして後に役に立てることが出来るいいアドバイスになっていました。今日からもっと子どもと向き合ってみようという気持ちも持つことが出来とてもよかったです。</p> <p>○子育てで大切にしていることが、それぞればらばらだったのが印象的だった。</p>
--	---

⑬ 担当団体	特定非営利活動法人 こどもサポート鈴鹿
協働ネットワーク団体	特定非営利活動法人 21世紀の子育てを考える会. 鈴鹿
開催日時	平成23年11月20日(日)13:30 ~ 15:30
会場	鈴鹿市男女共同参画センター ホール
対象及び参加者	一般
参加人数	20人
実施内容	<p>○テーマ:「子どもの権利って!? 男性による大激論!」</p> <p>コーディネーター: 嶋かをり</p> <p>シンポジスト: 竹村浩、杉本信之、森まさゆき、安井尚志</p> <p>・三重県子ども条例の前文を読み、基本理念の説明を行った。</p> <p>子どもの権利について、パネラーの立場や活動からどのように考えるかを述べてもらい、現在の子どもたちの状況から子どもの権利が保障されるためにはどういったことが必要なのか、鈴鹿市に子どもの権利条例ができれば、何がかわるのか、かわらないのか、なぜ子どもの権利条例が必要なのかを話していただいた。</p>
事業のねらい(目標)	<p>○「三重県子ども条例」への理解を深める</p> <p>○子どもは一人の個人として尊重される存在であり、最善の利益が保障されるということを参加者と一緒に考える機会とする。</p> <p>○参加者が自分たちの地域での子どもの権利条例の必要性を考えるきっかけとしたい。</p>
事業の成果	<p>パネラーの発言から参加者は、子どもの状況や権利について理解を深めることができたと思われる。三重県の子ども条例の理念やめざすものについてもあらためて学習することができた。鈴鹿市で子どもの権利条例を作ることに必要性や条例ができて何がかわるのかかわらないのかについても参加者が意識を深めることができたと思われる。</p>
参加者の感想	<p>○参考になることが多々ありました。条例づくり頑張って進めましょう。</p> <p>○子どもたちを地域ぐるみで育てていけるようになってほしいです。</p> <p>○すべての子どもがその子どもらしく生きていけるように私たち大人がどのように関わったり、法整備も含めて環境を整えていったらいいのか考えさせられました。</p> <p>○自分の頭の中が整理できてよかった。</p> <p>○国・県・市町それぞれの役割をしっかりと果たしていくことが欠かせないと痛感した。</p> <p>○子どもたちの状況について改めて知ることができました。地域で子どもの権利条例を作ることについて考える良い機会になりました。</p>
今後の展開について	<p>三重県の子ども条例をきっかけに、自分たちの地域で子どもの権利を守ることや、地域の子どもの権利条例への関心を高め、条例づくりの動きにつなげていきたい。</p>

⑭ 担当団体	NPO 法人 体験ひろば☆こどもスペース四日市
協働 ネットワーク団体	四日市市子ども支援ネットワーク
開催日時	2012年1月25日(水) 19時～21時
会 場	四日市市なやプラザ
対象及び参加者	四日市市職員・市議会議員・学童保育指導員・NPO 職員など
参加人数	38人
実施内容	<p>○テーマ:私の存在</p> <p>○三重県子ども条例の主旨(大切にされている理念)・成立までの過程・日本国内での「子ども条例」制定への動向についての説明</p> <p>○講師である市川岳仁さんが、薬物依存に至る経緯～ダルクとの出会い～回復～自分の人生を歩む実感を持つに至るまでの心の動きを聞く。</p> <p>講師:市川岳仁さん(三重ダルク代表)</p>
事業のねらい(目標)	「主体者として生きる」大切さについて考え、学ぶことを通して、子どもの権利や子ども条例の大切さについて、実感する機会をつくる。
事業の成果	多くの人にとって、特殊に思われがちな薬物依存について身近に感じ、その問題の根底に、自己肯定感の欠落や主体者として生きる感覚の麻痺があることを知る機会となった。
参加者の感想	<p>○自分を裏切り続けていく言葉にした瞬間に、そうでなくなる人間になりたい。時にはダルク。時には支援者。時には研究員。</p> <p>○いろいろな人がいて、あたりまえの世の中になっていくよう、自分も変わっていきたいと思います。</p> <p>○ダルクの存在は知っていましたが、生の話は初めてうかがいました。勉強になりました。</p> <p>○門脇厚司さんの「子どもの社会力」1999 (序)いま子どもたちに見られる変化とは、煎じ詰めれば他人への関心と愛着と信頼感をなくしていることであり、自分がふだん生活している世界がどんなところか、自分の体で実感できなくなっていることではないか。… 約 10 年前のことですが、学校崩壊と言われて、その後彼らはどうしているのでしょうか。私は、行政からお金をもらうつもりもなく、社会の片隅から子どもたちの未来を信じて応援して行きたいと思っています。障がいを持った人と人生を換えるわけにはいかないが、その横に立って寄り添うことはできる。</p> <p>○どんなかたちであれ、自分に正直に生きることが必要だと思いました。人に甘え、人に頼り、そして頼られたら楽しいかな。</p> <p>○先日テレビで薬物中毒にかかり施設に入っている人のいきさつ等ドキュメンタリーで放映しておりました。その中で薬物中毒は一生直らないと言ってましたが市川さんは16年間止めている事との事。それが自分の存在につながっているのかなと思いました。</p> <p>○自分に正直になれることの厳しさを感じていますが、市川さんは本当に正直に自分を見つめているからこそその話の内容で、感動しました。</p> <p>○こんなお話を聞いたのは初めてで、大変新鮮でした。自分に正直に、そして、ここまでしっかりと自分をほりさげて分析してみせられ圧倒される思いがしました。心のあり方を苦悩しながら、普遍化して下さって、ありがとうございました。</p> <p>○一つ階段をのぼっては、考え、矛盾を感じ軌道修正の繰り返し。市川さんの</p>

	生き方は、正直だけだととてもしんどいのではないかと、思いました。私はといえば、世間の目、常識など常に意識してばかりの毎日です。
--	---

⑮ 担当団体	特定非営利活動法人 こどもサポート鈴鹿
協働ネットワーク団体	鈴鹿子ども支援ネットワーク
開催日時	平成 24 年 1 月 29 日(日)13:30 ~ 15:30
会 場	鈴鹿市男女共同参画センター 研修室 1
対象及び参加者	一般
参加人数	42 人
実施内容	○テーマ:子どもに関わるとき大切にすること 三重県子ども条例の前文を読み、基本理念の説明、大人が果たす役割について説明を行った。 鈴鹿国際大学仲律子さんに子どもの発達の面から子どもに関わるときに大切にすることを子どもの権利をもとに話していただき、考える機会とした。
事業のねらい(目標)	○「三重県子ども条例」への理解を深める ○子どもは一人の個人として尊重される存在であり、大人は子どものそれぞれの発達段階でどのように向き合うべきかということ考える機会とする。 ○参加者が自分たちの地域での子どもの権利条例の必要性を考えるきっかけとしたい。
事業の成果	○子どもをどのような存在として捉えるかということを経史的に押さえ、「権利主体としての子ども」という捉え方にたつて発達段階に応じて子どもに対して大人がどうしなければならないかを話していただいた。 ○子どもの育ちに何が必要かという視点で、参加者は子どもに接するときになにが大切かを考える機会となったと思われる。
参加者の感想	○子どもの発達段階をおさえながらの話はたいへん興味深かったです。子どもの発達と子どもの権利を重ね合わせ、たいへん勉強になりました。 ○子どもが主体であることの見方、大人の役割とできること、すること ○もっと思いを受け止める、甘えることと主体的に動いていくことを環境を通してみたい。 ○子どもの人権イコール人権と思いました。弱い存在が守られる社会が実現するようと思います。 ○子どもを社会全体で育てていきたい。そう強く感じました。 ○子どもの権利を聞き、びっくりしました。 子どもは社会全体で育てなければということもよく理解でき、昔の私たちが子どもの頃がそうであったように、隣の子も叱れる人になりたいと思います。 ○講演を聞いて子どもの接し方、考え方がわかりました。子どもの主張をきちんとしっかり受け止めたいと思います。私も来年で成人式をむかえます。自分のことは自分でなるべく守っていかなくてはなりません。「大人になる」といおう自覚をしっかりと持とうと改めて思いました。「人を救える大人・保育者」になるため頑張りたいです。 ○それぞれの年齢に合った親の接し方がわかり、とても役にたちました。 でも、周りの人たちの声が気になってなかなかできないなとも思いました。3歳までは、いっぱい甘えさせてほしいことをさせて・・が大切とはわかっていてもついつい叱ってばかりです。(しつけができないと思われませんか?)みんなが子どものことを理解していないとよい子育てをしていきたくても迷いが生じますね。地域のみんなで育てていくにはみんなが正しい理解をしなないといけないなと思いました。

今後の展開について	子どものまわりの大人が(親だけでなく)、子どもの思いや願いに答えることが、子どもをかけがえのない一人の人間として尊重し、人間としての主体性を認めることにつながる。このことを学ぶことによって、子どもの権利を大切にす地域社会づくりにつなげていくことができると思われる。このような機会を継続的に持っていきたいと考える。
-----------	--

⑩ 担当団体	NPO 法人 体験ひろば☆こどもスペース四日市
協働 ネットワーク団体	Happy よかパパ
開催日時	2012年2月5日(日) 10時~12時
会 場	四日市市楠ふれあいセンターゆめの木
対象及び参加者	子育て中の父母・子育て支援者
参加人数	39人
実施内容	<p>○テーマ:「叱る、せかす、求める」子育てしていませんか?</p> <p>○三重県子ども条例の主旨(大切にされている理念)・成立までの過程・日本国内での「子ども条例」制定への動向についての説明</p> <p>○子どもの育ち、人間形成に本物の体験が大切であること。また、大人が先回りして指示せず、信じて、待つことによって、子どもの主体性が育ち、自立につながることにについて、幼稚園での事例を交えながら分かり易く話された。</p> <p>講師:松永高弘先生(暁幼稚園 園長)</p>
事業のねらい(目標)	子ども条例の基本理念である「子どもの権利」を大切にすることとは、子どもを主体者としてとらえ、自ら育つ力を信じて待つことであることについて学ぶ。四日市市の育メングループ「Happy よかパパ」との共催により、幼児を持つ親の参加を促した。
事業の成果	幼児を持つ親が多く参加したことで、安易に指示しがちな幼児期からその主体性を認めることの大切さについて、より身近に感じる事ができた。
参加者の感想	<p>○やはり、子どもに求めることは大きたくさんあります。それを持ちつつ、子どもを信じてよりそう子育てを心がけていかなければと思いました。</p> <p>○冒頭にもおっしゃられていましたが、毎日毎日叱ってばかりです。しかも、怒ってる時に頭の片隅では「ダメだなあ、私」と思いつつやめられません。松永先生は、信じる→任せる→待つ、というのを少しでもできればいいとおっしゃっていました。できない回数を数えるより、できたことをずっと覚えていたいと思います。私自身も好奇心を忘れず、これからも新しいことにチャレンジしていきたいです。ありがとうございました。</p> <p>○叱る、せかす、求める、子育てをしていると思い今日参加しました。私の長男は、実体験にとぼしくコミュニケーション能力がそだってないなあと思いました。次男は発達障害といわれていて、なにかこの学習会で得られたらと思ってましたが、自分の子育てをみなおそうといい機会になりました。見える学力の土台には見えない学力がある事、胸にグサリとささり、もっと遊びを通して、息子たちに伝えていきたいと思います。こども条例の事は今日知りました。ネットでみてみたいと思います。</p> <p>○始めのうちは、自分もやってきたことなので「そうだね」と確認した気持ちでできてました。最後の文では涙がとまらなくなってしまいました。大人はつい「できない」「変な子」と思う面が強いのですが、子どもは素直で「バカだ」「おかしい」と口にするけれど実際はいっしょに生活していく中で、自分と他の子の違いをみて、自分でできることはどうしたらよいか考えていく。私も障がいのある子の保育に関わって学ばせてもらってきて「人間には一人としてくずになる</p>

人はいない」と感じられました。経験を経て、年を取ってくるときばってやってきても人生ゆったりしていても人生。それなら人生、のんびり、たのしくやっていけたらと思った時、時の流れの中で何かをつかんでいくという思いで待つことが自然にできてくるとききました。

○子どもの育ちについて、当たり前の事を当たり前にこなしていくシンプルな共生に共感させられました。常々思い感じながら子育てをしている最中なので、少し立ち止まり、今しかできない未来へつなげる子育てをしていければと思います。

○「叱る、せかす、求める」子育てをしていませんか？という演題でしたので、まさにうちは叱るし、せかすし、求めるし、松永先生に怒られるんじゃない？とびくびくしていたのですが、最初に松永先生が「自分の家でも、叱るし、せかすし、求めてしまう」というようにおっしゃったので、心が軽くなりました。図で説明していただいたり、園での具体例をあげていただいてすごく分かりやすかったです。私自身は、子供にいろんなことを、とことん遊びさせたいと思っていて、我が子は高いへいの上に登っていたりするのですが、周りから「あぶないよー」「ケガするよー」と言われると、困ってしまいます。本当に大丈夫？とか思ったりします。今日『ケガをする子は、のぼらないよ』というお話があって、あ、そうかー☆☆と納得しました。他にも色々参考になるお話があり、うまく文章にできませんが、来させていただいて良かったです。ありがとうございました。

○待つことの難しさ、大切さを感じました。好奇心でしている子供の行動を、ついおさえつけてしまうとか…親をおこらせようとしているわけではない、全く悪気がないのに、子供の自立をさまたげてしまっているような気がしました。

○とても勉強になりました。感動もあり、子育てしていくうえで、心が浄化されたようなスッキリした気持ちです。“ほめる”というより“認める”というイメージが印象的でした。これからも、子育て楽しんでいきたいと思います。また先生のお話は是非聞きたいです！わかりやすく心にひびく内容でした。

○今まで、自分が正しい事を教え、聞かせる事が正しいと思ってました。今回のお話を聞き、そのやり方が全く子供にとって良い事ではなく、自分のわくに閉じ込めているとわかりました。子供の感性を育てる事が大事で、心の広い人間になれるよう、本日から考え方を換え、子供と接していこうと思います。

○まさに負のスパイラルの連続で…。でも、よく感じる不快感というのは、結局のところ、誰かと比較した点や「世間的」にどうか、という点が源泉だったことに気がつきました。しかも、その自分の中に生まれてくる比較や「世間」というものは、メディアなど業界が作り上げ、広告して流布したものだったりして、下らないものなんだとも気づきました。こども同様、自分の中にそなわった人としての力も信じてみようという気持ちになりました。

○子どもを何とかしようとする前に、自分の考え方を少し変える様になりたいなあと思いました。

○感性を育てることの大切さを学びました。「待ち」の子育ては大事ですが、なかなかそれもできない、ただ「できなくても」一日一度くらいそれができればいいんじゃないか、その一言は救われた気がしました。社会全体が「待ち」の子育てをできるようになれば、なおよいですかね。

○3歳と6ヶ月の2人の子供がおりますが、見える学力ばかり気になりますが、見えない学力、好奇心を大切にしていきたいと考えられるようになった。信じて待つということを教えていただきました。ありがとうございました。

○今日のお話をきいて、子どもを信じることをまず実行してみようと思います。正のサイクルを心がけて待ってみようと思います。

- 負のサイクルの話を聞いて、今、実行してる事だと思ったので、もっと待ってあげようと思いました。娘と同じくらいの子供がいる友達がいろいろ習い事をしているとか話をきくと「うちも何か…」とあせっていたので、安心しました。他にも、ほめ方の違いも聞いて、最近何か物事ができると「みうちゃん、かしこい？」とか聞いてくるようになったので、ほめ方が間違っていたんだなあと感じました。いいお話がきけてよかったです。
- 子どもが小さい(赤ちゃん)の頃は、待つ子育て、子どもの興味や関心を大切にしようと思い、それを今よりは実践できていた気がするのですが、2歳を過ぎ、自我が発達し、言葉が通じるようになると求める子育てばかりしていました。もう一度、気持ちをリセットして、信じる、待つ子育てを頭に入れなおしたいです。
- 本日はご講演を拝聴でき、大変参考になりました。ありがとうございます。先生が最初は仰って頂いたように、自分も日々「叱る、せかす、求める」子育てをしており、反省に至ることもしばしばです。私も4人の子を育てて、やっとゆとりを持って子どもに接することができるようになりました。ふだん、私がこうしたいと思っていること、「体験を大事にする」「考えさせる」「対峙する」が大事だということを再確認できました。そんな中で、感じたことを記します。・私も4人目でやっと気づくことも多いです。自分だけ気づけば良い訳ではなく、子どもも社会の中で育ち、活動していくようになる訳で、多くの人が「叱る、せかす、求める」子育てをし、余裕のない中で、きゅうくつな子が多くなると、自分の子にもはねかえってくると思っていて、自分の気づきをまわりに発信していくことが大事だと思っています。そのための活動の1つが『happy よかパパ』です。・私は、もともと自然が好きで、登山やキャンプに子どもをつれ出します。私が楽しんでいるので、今は子どもたちも楽しくやっていますが、本来あまり外に出たくない子もいるだろうし、与えるのが先になっていないかなと心配になります。もっと自分でやりたいことを見付けさせるべきかなとも思います。・聴く能力の話については、家族の中の対話ももちろん大切ですが、大人どうしのコミュニケーションを子どもが見る機会が少なくなっているのも問題じゃないかなと思っています。すべて子ども向きではなく、大人を大人の関係性も見直す必要があるのかなと思います。長々と失礼致しました。
- 求める、せかす、怒る、の黒いサイクルの最初のお話から、じわ～と泣けてきました。日頃、本当にそれ以外のことをしていないよなあと苦しくなっていたからだと思います。そういう日常の中でも1つでも赤いサイクルができればOKとするというのは、とても励まされました。「期待」は、つい求めてしまうものですが、「時期を待つ」というのは心に余裕がもてるものでした。自分にも期待して、もう1度、次の「成人式」を自分で設定して、つみ重ねていったらいいと思えました。それから「ほめて育てる」というフレーズに「そうなんだ」と思いながら、何かひっかかっていたのですが、具体的に何が良かったのかを伝えることが大切とのことで、とってもスッキリしました。納得しました。そして、何よりも子どもたちと少しの時間離れて、普段を振り返る時間を持つことは、とても大事で、必要で、ありがたいことだと思います。

⑰ 担当団体	三重県・名張市
協働 ネットワーク団体	企画実施:(特)三重県子どもNPOサポートセンター 企画実施:名張市子ども権利委員会 後援:伊賀市
開催日時	平成24年2月11日
会場	名張市武道交流館いきいき 多目的ホール

対象及び参加者	三重県子ども未来室・伊賀市名張市の子どもに関係する行政 教育委員会学校関係・保育所幼稚園関係・伊賀市ファミリーサポートセンター チャイルドライン・MIK 運動推進委員会・託児ボランティア・市民など
参加人数	170 人
実施内容	<p>○テーマ:子どもの権利ってなあに?</p> <p>○三重県子ども条例・名張市子ども条例の趣旨説明 「ばりっ子会議」発表 ばりっ子会議メンバーが市長に“もし名張で災害が起きたらどうしたらいいの”というテーマで提言</p> <p>○基調講演「子どもにやさしいまちを創る」 一子どもの権利条約、条例をどう生かすかー 講師:早稲田大学教授 喜多明人さん</p> <p>○活動報告会 子どもの声に耳を傾け、支援活動をしている団体からのメッセージ</p> <p>◆チャイルドラインの取り組み 指示・指導しない、傾聴するという 18 歳までの子ども専用電話の実態</p> <p>◆名張市子ども相談室の活動 子ども相談窓口の仕組みと寄せられる相談</p> <p>◆ばりっ子会議の活動 子どもによる子どものための会議の意義と内容</p> <p>◆託児ボランティアカンガルーの活動 伊賀市の託児ボランティア活動から見える今日的課題</p> <p>コメンテーターの喜多先生に報告を聞かれての感想や意見を頂き、会場からの質問にも答えて頂きました。</p>
事業のねらい(目標)	市民の子どもの権利にかかる理解を深め、子どもの健全育成を推進するとともに「三重県子ども条例」「名張市子ども条例」の周知徹底を図る。 三重県と名張市両方の目的が「子ども条例」にかかわる啓発・学習で一致することから、共催で実施することにより相乗効果と効率化が期待できる。チャイルドラインのメンバーが伊賀名張地域の市民であるため、伊賀市の後援を受け伊賀名張地域全体で実施する。
事業の成果	子ども支援の大切さとその意味が良く分かった。日常的に子どもたちと大人はどう向き合うか、きちんと向き合う事が大切であること。 「力がある存在」として子どもの観に立つ。自己肯定感高める事が大切である。その為には子どもがエンパワメントする事。それが子どもへの支援である。今の世の中大人の自己肯定感が低いので、子どもの持つ力に気づかない人が多い。まちづくりは人と人とのつながりである事。 チャイルドラインの役割も分かって頂けたと思うので、自治体と市民がコラボレートとして地域社会を創っていくが大切である事が課題である。 子どもを生活者として総合的に支援していく。
参加者の感想	<p>○「子どもの力を引き出す」と言われた言葉に心を動かされた。大人の向き合い方が大事と言われた時、どうだったか、どうしてきたかしらと自分を振り返る事が出来、本当の心の支援が出来るようになりたいと思った。</p> <p>○子どもやりたいと言う気持ちを大切にしたい。</p> <p>○喜多先生のお話はとても分かりやすく良かった。</p> <p>○名前しか知らなかった三重県と名張市の子ども条例の事が良く分かった。子ども 2 人いるので興味深い内容だった。</p> <p>○まちづくりと子ども条例を関連付けて考えてなかったので、基調講演は面白かった。</p>

	<p>○子ども条例について詳しく知る事が出来良かった。職場でも自己肯定出来るように取り組みたい。</p> <p>○子どもの力を引きだす、育てることは常に難しい課題、子どもは待ったなしで成長する。親としての度量を問われたように思った。</p> <p>○子どものいない家庭でも知ってもらう事が必要だと思った。</p> <p>○子ども立場での後援・シンポもしてほしい。</p> <p>○ぱりっ子会議の子ども達の市長への提言を聞いて子ども達もいろいろ考えている事が分かった。子どもの思いを大切にすることの大切さを再確認した。</p>
今後の展開について	<p>今回の学習会をきっかけに子ども条例の事を少しは知って頂けたと思うので、もっと周りに広げていく必要があると感じました。</p> <p>今後何らかの形で子どもの権利について話し合いや学習の機会を創る事が出来れば良いなと思いました。</p>

⑱ 担当団体	四日市まんなか子ども劇場
協働ネットワーク団体	四日市市学童保育指導員連絡協議会
開催日時	平成 23 年 2 月 24 日
会 場	四日市市勤労者・市民交流センター東館
対象及び参加者	子ども支援者・学童指導員
参加人数	62 人
実施内容	<p>○テーマ:子どもの権利条例ってなんだろう「学童における子どもの権利保障を学びあいませんか」</p> <p>○「三重県子ども条例」について</p> <ul style="list-style-type: none"> * 三重県こども条例の経緯と主旨・内容 * 今の子どもたちの置かれている状況 * 子どもの権利条約とは <p>○講演「子どもの権利ってなんだろう」 ～学童における子どもの権利保障を学び合いませんか～ 講師:(特)三重県子どもNPOサポートセンター・チャイルドラインネットワークMIE 理事長 田部眞樹子さん</p> <ul style="list-style-type: none"> * 学童には素晴らしい現場がある。 * 権利とは ～権利尊重の精神～ * 権利という概念を日常化するために * 子ども力を信じる ～子どもの権利保障は大人の子どもの見方、向かい合い方(支援)が問われること * 権利は特別なことではない * 学童におけるこどもの権利保障
事業のねらい(目標)	<p>地域で学童保育所の運営をしている当団体にとっては、子どもが遊びを通して異年齢集団の中で、育ち合う関係がみえます。低学年期の子どもが中心の学童保育ではありますが、高学年の子どもたちがいることで子どもの自治が発揮されます。そのように、学童保育での子どもの育ちを考えると、その支援者、とりわけ指導員の質が問われます。しかし、四日市市では、民設民営という運営形態から保護者中心の運営をせざるを得ないところが多く、その中身にまでこだわれない学童保育所が多いと思われます。</p> <p>指導員については、保育園・小学校教諭などの資格保有者または経験者などが望ましいとは言っていますが、保障制度や身分制度などが整っていない現状においては、熱意がある、その時間になら来られるといった方に来ていただく</p>

	<p>という現状で、その人員も不足しています。また、その現場においては、指導員の多くの方々が、「三重県子ども条例」ができたことを知らない。ということや権利意識が薄く、子どもの権利侵害と思われる行動や言動から、「子どもが行きたくないと言って困る」などの親の声が、管轄の四日市市教育委員会にも届くようです。また、子どもを放置状態にし、子ども間のトラブルからいじめに発展したというケースや親による虐待ではないかと疑問視されるケースにも遭遇したことがあります。しかし、その役割の重要性と比較して、市主催の指導員研修は、子どもへの対応方法や技術の向上的な研修が多いため、こういった「子どもの権利」についての研修の機会はありませんでした。指導員研修の位置づけにさせていただきました。</p> <p>今回は、数多くの子どもの声を受けてきたチャイルドラインの理事長の講演「子どもの権利とは」をお聞きすることで、子ども支援者が、子どもの権利の視点に立って子どもたちと向かい合い、関わり合うことで、子ども自身がエンパワメントされ、自己肯定感をもち自分自身や仲間との問題解決に向かっていけるのではと思います。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>「三重県子ども条例」の認識と理解</p> <p>○「三重県子ども条例」があることを知らなかった方が多く、参加していただくことで、理解につながりました。</p> <p>○今回、四日市市指導員連絡協議会の研修に位置付けることで、たくさんの参加を頂き熱心に聴いていただきました。NPOと協働を通して、四日市市の学童保育の指導員の質の向上に意識を向けるきっかけになりました。子どもの権利保障は、おとなの子どもの見方、向かい合い方が問われるので、実践していただける機会が多い方々にとって、子どもとの向き合い方などを振り返っておられる方が多かったです。そのことは、子どもが主体者として関わることができ、子どもの意見表明が保障されていくことだと期待できます。そのことは、ありのまま自分でいいのだと 子どもの自己肯定感につながります。「どーせ○○」と何かにつけ諦め感の強い子どもたちが、実感を積み重ねながら、人との信頼関係を結ぶことができ、自己実現していけるのだと思います。また、その指導者として責任とほこりを持つことができると考えられます。</p>
<p>参加者の感想</p>	<p>○“権利”と聞くと、ただ単に権利を主張する印象がありました。お話を聞いて、権利と表現されているけれど、身のまわりに当たり前にあるものだと、よく分かりよかったです。</p> <p>学童では、“待つ”のが大変難しく、又、ほとんどの子が不満をかかえており、フォローする余裕がない状態です。でも、自分に出来ることを考え探して行きます。</p> <p>○とてもとても素晴らしいお話本当にありがとうございました。心が熱くなり動かされ、涙が出そうになる思いでした。</p> <p>指導力不足から子どもたちが、表面的にまとまらなかったり…複数の指導員でかかわっているのが、子ども達へのかかわり方に悩みながらの毎日でした。</p> <p>先日、いじめ・いじわるをした事件がおき、対応に苦しんでいました。自分を大切にできないから、相手を大切にできない…子。</p> <p>日々の保育、一言一言の声かけ、かかわり方にもっと気を配り、ほこりをもって、子どもたちと過ごして行きたいと、元気パワーを頂きました。本当にありがとうございました。</p> <p>「指導員」という名ではなく「支援員」と変わりたい気持ちです。市にも、保護者にもそういう感覚をもってほしいです。</p>

- 権利主体が子どもの側からみるものだと言うことがわかりました。大人の対応の仕方でも子どもが変わる。参考にしたいと思います。
- 両親の共働き、核家族化、ひとり親の増加、地域交流の減少と様々な原因が重なり、子どもの立場から見て「わたしのことをみてくれる人」や「わたしの話をたくさん聞いてくれる人」が減ってしまっていると感じます。ひとりの子ども対ひとりの大人で落ち着いてお会話することのできる環境づくりが、社会や行政の取り組み(人員や資金)が必要かと思います。
- 子どもの権利と言うのがよくわかりました。子どもは、大人と共に社会のパートナーである事が素晴らしいです。これからは、子ども達の関わり方も、今日のお話を参考にして、子ども達の権利主体＝大人自身の権利主体を大切にしていきたいです。自分がかわれれば相手もかわるんですね。子育て＝自分との戦いですね。子どもも大人もファイトです。
- 私自身、現在高校3年生と中学2年生の男の子を持つ母親です。先生のお話を聞いて、子育ては、自分との戦い、待つことの重要性を改めて認識させられました。
私自身、子どもからあらゆるチャンスを奪う行為をいかに今までたくさんしてきたことかと反省させられました。これからは、母親として、学童として、子どもの権利主体を大切に、日々努力していきたいと思いました。
- お話の言われる事はよくわかりましたが、子ども達に向き合っている親の少ない中で、子ども達に向き合っていくのは、大変です。権利があると伝えれば親との考え方で、子どもが迷ってしまう事も多々あります。親も育っていかなければ…と思う事ばかりです。
- 今日、改めて「子ども条約」の事聞かさせていただきました。子どもの権利、主張等、「えっ」と思う事ばかりで驚いています。とてもいいお話を聞かさせていただきました有難うございました。又、講演会等参加させていただきたいと思いました。
- 自分が親の言いなりで、はむかう事もできず今まで生きてきて、自分の子どもにだけは、自分と同じ思いはさせたくないと思ってしていたことが、正解(?)だと確信でき良かったと思います…
- 子どもの自己肯定を育てる為に、子どもたちをとりまく大人の言動がいかに大事かということ、子どもを主体として、日常生活でのなにげない問題に対しても、大人が子どものかわりにすぐにやってしまうのではなく、子どもが考えられるまで信じて待つ姿勢を持ち、自分で子ども自身が解決出来たという気持ちを持たせてあげることが子どもの心の成長に大きくつながっていくのだということを強く感じました。
- 権利と義務は表裏であるという認識がありました。中学生の頃に学習した事柄であると思います。私の理解が違っていたのであろうかと考えますが、先生のお話のとらえ方と少し違うように感じ再考することにします。
- 権利は、勝ち取るものをいう大賛成です。子ども達を大切に、大切に心を持って育てていく手伝いをしていきたいと思います。学童という環境に出会えたことに再び感謝しています。
- 自己肯定感。改めて考えさせられました。子ども達を大切に見守る前に、自分自身を肯定する事を忘れていては、子どもと上手く関われない事がわかりました。これからは、自分を大切にこれから指導員として、子どもの為にお手伝い出来るように頑張りたいと思います。指導員の権利を守られると、私達も安心して一生懸命子どもと関われると思います。ありがとうございました。
- 権利という言葉だけでは、とても難しく感じて取り組みにくい、少し遠くから見ていた気がします。具体的で、日常の中で、そして学童の中でもう一度考え

てみたいと思います。

子どもが 20 歳になり、できれば自分が子育て中に、先生のお話を聞くことがあればと少しとても残念に思いました。

○田部先生のわかりやすいお話を聞かせて頂きまして、とても勉強になり、自分自身を考え直すよい機会になりました。

学童は、子ども達の主体を生かす現場である。遊びの中で育つ子ども達の支援者としての目標を命じ、今後とも頑張っていきたいと思います。子どもは一人の人間として独立した人格と人として尊厳を持ち、かけがえのない存在である。自分とは、別人格意識の醸成…など

I am OK you are OK の関係を保っていきたいと考えます。ありがとうございました。

○子どもと向き合い、子どもの意見を聞き自ら考えさせてきたように思っていますが、知らぬ間に大人の意見を押しつけてきたように思います。

とても熱い田部先生の講演をお聞きし、また力が湧いてきたように思います。

気になる子どもを数名抱えている昨今、もう一度子どもと向き合い、自分を愛して、子どもにも愛をそそぎたく思います。

○小さい頃からの子育ての大切さ、子ども一人一人が生きていく上で権利を持っている事を学び、私たちの仕事が、どれ程大切かを考えなければいけないと思いました。自分を愛さなければ人を愛せないのを感じました。

○子育ては自分自身との戦いであり待つ力。これは、日常的に理解できていても実践的には困難である。田部先生が、子育てのお話をして下さり、その中から、子どもの権利の大切さを学びました。涙が出ました。自分自身の待つ力が、私自身に充分あるだろうか、とても不安ですが今日の講演を拝聴し、自身の待つ力を育みたいと思いました。

○学童の児童との関わりの中で、引用できることが沢山見つかりました。子どもの声に耳を傾けること。子ども自身の主体者になる居場所にする。キャッチボールできる学童にすること。等。

今日の熱い想いをそのまま学童に家庭に持ち帰ります。ありがとうございました。

○まず「自分を愛すること、大事にすること。」確かに自分が出来てないのに、他の人の事ができませんよね。気付かされました。でも、今の自分はなんだろう？と思いながら講演を聞いていましたが、やはり正直な気持ち「自分を愛すること、大事にすること」にはなっていません。日々色々な環境の中で勉強をさせてもらいながら自分について考えていきたいと思えます。人との関わり…すごく大切ですね。一言では言い切れませんが、これからはいろいろと学びたいと思えます。

○頭ではよくないとわかっているが、命令口調で言う「～したほうがいいんじゃない？」ってこちらからいってしまう。などなど反省点がたくさん…。

じっくり関わらないといけないのになあ、早急に結論を出す、終着点におちつかせようとする(したい)気持ちの表れだろうなと思えました。

最近、そういえば自分の自尊感情がうすれてきているのではと考えるきっかけになりました。環境が変わり、少し自信をなくしているのかも。自分を甘やかさない程度に楽しみつつ、充実感を味わえるように心がけていきたいと思えました。

○学童への支援が減られることについて、それに反対するため具体的に行動をすればしたら、お母さんたちや子ども、指導員が集まって四日市でデモ行進・署名運動するという以外に具体的には、どんな手だてがあるのか教えて欲しいです。

- 子どもの権利って…？とっても難しい言葉でよく理解できないと思っていました。お話を聞かせて頂いて、本当に良かったと思います。
- 子育てを終え、何か私にでもお役にたつことがあるかと思い、指導員として子ども達と接しています。日々いろいろな事があり、お仲間の方と、ここは自分の心を成長させる試練の場だね…と話をしています。これからゆっくり考えてみます。
- 「指導員として」以前に、子どもと関わる「大人として」大切なことをたくさん教えて頂きました。自分には、自己肯定がほとんどないのに、子どもたちには、自分に自信を持ってほしい、自分のことも、周りの人の事も大好きになってほしいと言ってきました。自分ができていないからこそこだわっていたのだと思います。今日、お話を聞いて「まずは自分」なのだということを知りました。今日から考え方を改めて、これまでと違ったアプローチを子ども達にしていけるといいなと思いました。
- 具体例もあり、とてもわかりやすいお話でした。興味を持つことが出来ました。ありがとうございました。
- 実践例も交えた講演とても興味深く拝聴しました。子どもに考えさせる、行動させる、責任持たせるというのを、私が、実際にやろうとすると、誘導的になってしまいそうで気を付けなきゃなと思いながらも、ぜひトライしてみたく思いました。
- こどもの権利をわざわざうたわなければならないこの今の現状が悲しいです。当たり前なことが当たり前でできなくて苦しんでいる子どもがいるということですから。私たちも勿論変わらなければなりません、最近の親の様子を見ると、もっともっと子どもと接してあげて！みてあげて！と言いたくなります。
- 子どもの目線で合わせて話し合いをするという基本的な事を忘れない様指導していきたいと思います。いつもおやつの時間前に“宿題してよ”と押しつけていましたが、これからは、子ども達に考えさせ時間を使ったら良いか考える事の大事さを育てていきたいと思います。これから、子どもと一緒に頑張って自分も成長していけたらいいなと思います。
- I am OKと自信を持っていえる指導員でいたいと田部さんのお話を聴き改めて思いました。
- 権利・人権という言葉に、惑わされる事が多いと思いますが、子ども目線で日常的に人と人とがどう関わるか、相互尊重の精神がお互いの心の中に育まれることが大切なのだと感じました。
- 一人でもいやすべての子どもが幸せで輝いて、自分が好きで自分の意思や思いを表現し、生きられるよう、今後の毎日を楽しんでいきたいと思いました。それには忍耐が必要ですよね。それから感情、感性を育むことも必要ですよ。
- 子どもの権利条約について行政の理解はまだまだと思っています(私たち人権擁護委員もです。)先日、県の情報交換会で説明を求めたら…資面に書かれたことを説明するだけで思い(作った)などは誰も語れない様子だったので残念です。
- 日々学童の生活の中で、子ども達に対して「～しなさい」「ちゃんとしなさい」と言う事が多いことに気づきました。今回の講演で、本当に何がちゃんとなのか…全部自分の基準から出てくる言葉だったと、子どもの気持ちを考えているつもりだったと少し落ち込んでしまいました。自分でも忍耐強い方だとは思いますが、自分の気持ちに余裕がない時、周囲にも気になることがある時など、ゆっくりと子どもに向き合うことを止めてしまう時もあり……でもそれだけをしている訳にはいかないという葛藤があり、これからも悩んでいこうと思

	<p>います。</p> <p>○子どもの支援者として、子どもの事を肯定するという事を大切にしたいと思いました。義務の前に権利を！！集団で過ごす(異年齢)大切さ。遊ぶ事・学ぶ事の楽しさを味わってほしいと思っています。子どもの学びの権利、関わり合い方を考え、親や支援者として、待つ姿勢を持つ。</p> <p>○こちらの意見、質問を言う時間があれば良かった。 全体を通して、自分の親の子育て方法とかぶっていて、親の意見を聞いたり、今日の話をしたくなった。</p> <p>○子どもとは自分とは違う「人権」という考えを持つという事が大事だという事は、本当に大事だと思いました。またこれは問いかける姿勢を持ち、ダメとかしてはいけないという言葉ではない。ただそれには、自分で決めた事に自分で責任を持つという事が大事だし、そこまで考えていいんだという安心感が得られました。また「一人で決めていく辛さ」は責任をおって生きてきたという証であるから、私はまだ子育てや結婚などはしていませんが、子どもができたら問いかけていきたいと思いました。また、そのためには、自分自身が一生懸命勉強をし、学び続けるという、大切さを教えて頂いたような気がします。</p>
今後の展開について	<p>この講演会を企画することで、色々な協働の在り方があることを学びました。今回は、研修としての位置付けしていただき、強制ではないものの必要なものという考え方で進めて頂きました。たくさんの方の指導員さんが来てくださいましたが、一つの学童の指導員が全員参加というところから、一人も来ていないというところまで、参加意思が分かれましました。参加頂いた方々の様子は、ノートを必死でとる。というよりは、じっと集中して講師の話を聞くといった感じで、これまでの研修の様子とは違っていました。</p> <p>これまでの研修は同じものの繰り返しで、研修はしてもあまり学童としての変化は見られないという様子でしたし、研修の中身に関しても与えられたものを受けるといったものでした。協働することで内容の質や参加の仕方など積極的な関わりになることの実感を持つことができましたので、今後も協働していくことで、市全体の支援の質の向上を図っていききたいと思います。そのことが、子どもが主体者になっていくことに近づくことだと思います。</p>

⑱ 担当団体	特定非営利活動法人 津子ども NPO センター
協働ネットワーク団体	なし
開催日時	2012年2月25日(土)13時30分～16時30分
会場	アスト津 3F イベント情報コーナー
対象及び参加者	一般市民・子ども支援者
参加人数	55人
実施内容	<p>○テーマ:子どもと向き合うことは、自分に向き合うこと</p> <p>講師:関西学院教育学部准教授 浜田進士先生</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三重県子ども条例の前文を読む。 ・講師による講演会(ワーク形式を取り入れて3人ずつで話し合う)
事業のねらい(目標)	○子どもと向き合う時、自分の傾向や自分自身のもっているものが出る。自分自身をOKしなければ、子どもをOKできない。大人自身が自分を(自分の権利)受け入れることを学ぶ
事業の成果	<p>○子どもの権利について知ったり考えたりするきっかけになった。</p> <p>○毎日の暮らしの中で子どもの話をしっかり聴くことなど子どもの権利のことが身近なことであることを感じてもらった。</p>

参加者の感想	<p>○子どもの権利を無視してきたのではないかと思う。気持ちの共有、声を聴くということができていなかったように思う。</p> <p>○自分の子どもに自分の思いを押しつけ、コントロールしようとしていることに気づいた。</p> <p>○子どもの権利を考えるきっかけを作ってもらった。</p> <p>○子どもを権利主体として考えるというのがなかなか解りにくかったのですが、子どもの存在そのものをあるがままに受け止めることで、少し考えられるようになった。</p>
今後の展開について	<p>○津市の中で現在「津市子どもの権利条例づくり推進市民委員会」をたちあげ、展開させようとしています。子どもの権利について理解する人が増えていくことをつくりたい。具体的にはこれから。</p>

⑳ 担当団体	特定非営利活動法人松阪子どもNPOセンター
協働ネットワーク団体	子どもの権利を考える市民委員会(松阪市こども未来課・松阪市教育委員会人権学び課、松阪市社会福祉協議会、松阪市学童保育連絡協議会、主任児童委員、くれっしえんど)
開催日時	平成24年2月26日(日) 13:00~16:00
会場	ワークセンター松阪
対象及び参加者	子どもに関わる人、一般
参加人数	82人
実施内容	<p>○テーマ:地域で子どもを支援すること~子どもを権利主体としてとらえるには~</p> <p>○三重県子ども条例について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども条例の前文と基本理念 子どもを権利の主体とする 子どもの最善の利益を尊重する 子どもの力を信頼する <p>○「子どもの生きるチカラ」</p> <p>講師 関西学院大学 准教授 浜田進士さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもがすることよりも「ある」ことを大切にする。 「つながり」の中に生きていることに気づく。 ・子どもは一人の人間だよ。子どもは権利の全面的主体。子どもは、社会に積極的に関わっていく存在。 ・子どもが、ここに「ある」ことのチカラ ・子どものチカラを支援する3つの条件 <ol style="list-style-type: none"> ① 意味ある他者との出会い 気持ちを聴いてくれるおとなと仲間、第三者のおとな ② 安心できる居場所の確保 ③ 子どもの権利を支援するシステム(仕組み・予算・法律) <p>○「松阪市における子どもたちの今、これから」</p> <p>ファシリテーター 浜田進士さん</p> <p>パネラー 大畑恵理さん・松井みやさん・久瀬 宰さん・塩谷明美さん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴くこと ・学ぶこと、遊ぶこと ・つながること
事業のねらい(目標)	<p>○三重県子ども条例の認識と理解。</p> <p>○子どもの権利とは何か、子どもを権利主体と捉えることとはどういうことかを学び合う。</p>

	○地域における子ども支援とはどういうことかを投げかける。
事業の成果	○子どもの権利を考える機会になった。 ○パネルディスカッションで話が脱線してしまいテーマがぼやけてしまった。事前の打ち合わせを重ねるべきだと思った。 ○子ども委員会から参加してもらったことで、子どもの声を発信することができた。
参加者の感想	○パネルディスカッションはむずかしいと感じました。テーマにそつての話は普段子どもの声を聞いている人がいいのかなあ。相談員さんとか。あとは子ども委員会の子どもにたくさん話してほしかったです。 ○自分は今コミュニティースクールで地域、学校とかかわっているが、家庭、学校、地域の単位での関係をバランスするツールではあるが、各単位での今できる事を支援することが大事と思った。 ○浜田先生の「それぞれが誰かの支援者になる」という言葉がとてもあたたかくひびきました。 ○松阪市でも「子どもの権利条例」がつくられるまで力をつくしたいと思っています。 ○地域にサポーターはたくさんいる。それをどう重ねてひとつの大きな力にするかだと思った。 ○ゲームに関して、あれはとても分かりやすい世界。やればやるだけ進んでいく。現実はそのようなことはない。そのあたりが快感なのかも。けれども直接のコミュニケーションは皆無。人はつながりの中で生きるものだから、子どもたちがもっと社会に出てこれる環境を作っていきたいと思います。 ○大畑恵理さんの意見が若い世代の声を具体的に伝えてくれていて聞けてよかったと思います。ゲームも体験の1つなんだと改めて驚きました。疑似体験と実体験とは違うのにな…。でもそれが当然として育ってくる子どもたちとの向き合い方…を試行錯誤で見つけていく形がこれから求められているのですよね。と感じました。 ○子どもは地域の宝です。誰もが住んでいる地域の子を自分の子のように受けとめ、愛情を注ぐことが、子どもをまっすぐ育てること、ひいては地域づくりにつながるのだと思います。 ○現在子どもの権利がない、もしくは制度として守られていないのかというようなことについて考える機会となった。 ○子どもが学童クラブに入っているこの利点のひとつは、地域で子どもどうしのつきあい、遊びがないなか、また一人っ子のなか上下を含む集団生活の場となっている。このようなことが地域で学校でもおこなわれればよいと思う。
今後の展開について	○参加者からもこういう機会がもっとあるとよいという意見もあったので各地域で参加者も話せる場をつくり、子どもの権利について考える場を広げていきたい。